

# 鹿屋寺子屋かわら版

令和7年10月31日発行 第50号

## 魔法のことば

10月4日(土)に生涯学習課主催の鹿屋市家庭教育講演会が実施されました。講師は石田勝紀氏(教育デザインラボ代表理事)で、演題は「学ぶ力を引き上げ、幸せな人生も歩める子になる『マジックワード』」でした。興味深い話が聴けましたのでここで紹介します。

### 【自己肯定感を引き上げる10の魔法のことば】

自己肯定感とは、簡単に言うと「短所も含めて今の自分がいいね。」と思えることである。ある調査によると日本人は他国に比べて自己肯定感が低い。なぜ低いのか、石田氏によると「学校に行って勉強をするからである。なぜかという、勉強ができることだけが唯一の価値であるような風潮があるから。だから、あまり勉強が得意でない子どもは、自己肯定感が低い。」とのことであった。

そこで、次の「自己肯定感を引き上げる10の魔法のことば」を提示されました。

【承認のマジックワード】	1	すごいね	2	さすがだね	3	いいね
【感心のマジックワード】	4	なるほど	5	知らなかった		
【感動のマジックワード】	6	ありがとう	7	うれしい	8	助かった
【安心のマジックワード】	9	だいじょうぶ				
【指摘するマジックワード】	10	らしくないね				

留意点としては、「軽く、明るく、さりげなく」伝え、長々と話さず短いことが大事だそうです。

### 【頭脳のスペックを引き上げる魔法のことば】

子どもの脳をパソコンのOSに例えて、そのバージョンを上げていくと処理能力が上がっていくように、子どもの脳も成長によってバージョンアップしていくが、個人差がある。子どもの脳のバージョンの差が学力差になる。

子どもの脳をバージョンアップさせるのに必要なものは、「考える力」である。考える力とは、「疑問を持つ力」「まとめる力」である。子どもにその力をつけるためには、指導者的立場の人(保護者や先生等)の声掛けが重要である。

#### 「疑問を持つ力」

- 1 なぜ?・・・原因分析力
- 2 どう思う?・・・自己表現力
- 3 どうしたらいい?・・・問題解決力

#### 「まとめる力」

- 1 要するに?・・・抽象化思考力
- 2 例えば?・・・具体化思考力

これらの質問に対して、答えられなくても大丈夫である。一瞬でも考える習慣を身に付けることが大事である。

さて、私たちの寺子屋でも実践できる場面がありそうです。宿題の支援をする中で、何気ない会話の中で、「なぜそう思ったの?」「すごい。」「要するにどうということ?」などの言葉があふれるといいですね。

## 鶴峰寺子屋塾 ～9月の様子～

### 【児童の感想】

- 本をいっぱい読みました。けん玉が楽しかったです。
- 勉強がすぐに終わって、折り紙とけん玉をして楽しかったです。

### 【指導員の感想】

- 子どもたちと本を読んだりして楽しかったです。
- 宿題をきれいな文字で書いていました。幼少期からの練習が大切だと思います。
- 宿題を早く済ませて、3人で楽しく遊んでいました。



## 古江寺子屋塾 ～9月の様子～

### 【児童の感想】

- 4年生一人と2年生一人が欠席して、一人で静かに宿題をしました。
- 運動会の予行練習がきついでした。その後の授業が算数だったので、とてもきついでした。寺子屋では、宿題の漢字をがんばりました。

### 【指導員の感想】

- 運動会の練習の後だったようで、気持ちが高揚していて、にぎやかでした。



## 輝ラ塾 ～モルック体験～

### 【児童の感想】

- 宿題が終わってから、モルックをしました。最初は勝てなくて、くやしかったけど、みんなですると楽しかったです。

### 【指導員の感想】

- 2年生男児が新規で入塾しました。宿題にきちんと取り組み、「輝ラノート」の記入もできました。市民スポーツ課の出前講座でモルック体験をしました。勝負を決するミラクルプレイに歓声が沸いて、大いに盛り上がりしました。



## としちゃん塾 ～ひまわりの植え付け～



4月23日に、苗の植え付けを行い、7月4日に満開を迎えました。

